

吉原家文書目録解題

この史料群は、上越市清里区梨平（なしだいら）の吉原家に伝来したもので、平成 24 年 7 月、原蔵者から上越市公文書センターへ寄贈された。

吉原家は、江戸時代頸城郡武士（もののふ）郷梨平村の庄屋を勤めていたものと思われる。

梨平村の村高は、正保絵図で 44 石、天和検地帳で 51 石余、天保の郷帳では 129 石と、江戸時代末に大きく村高を増している。

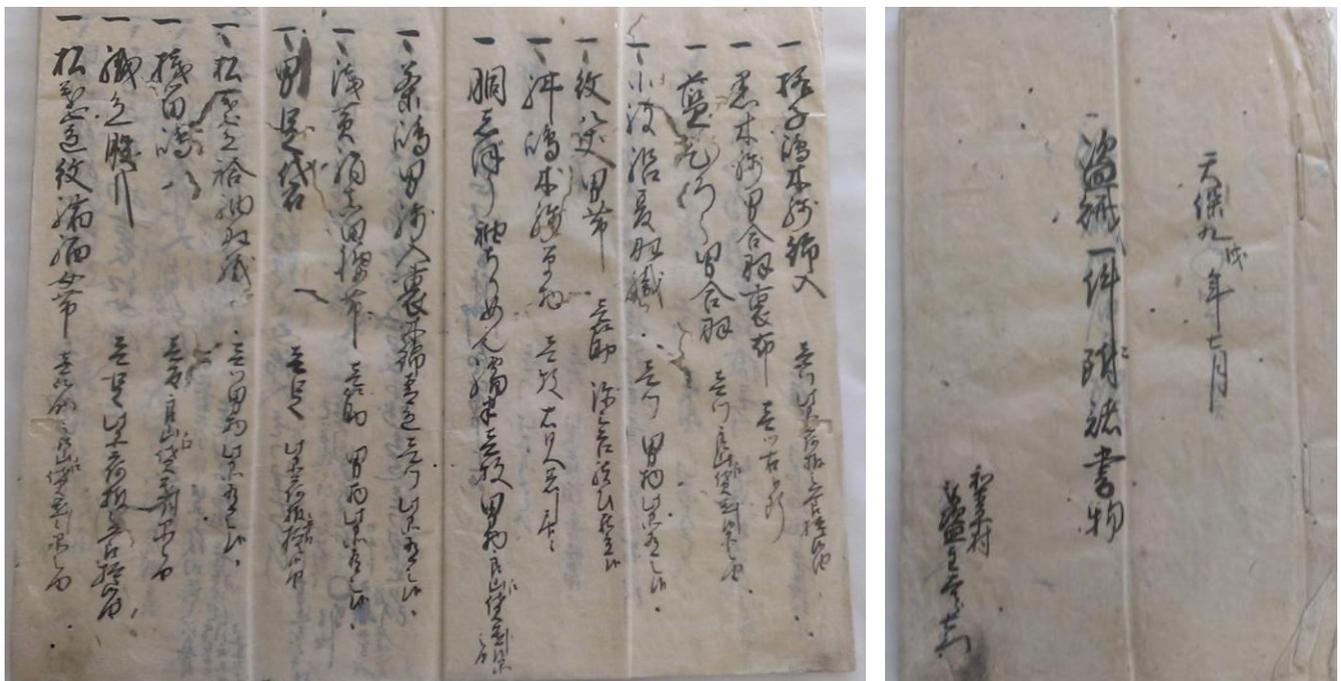
近世の領有関係は、高田藩藩主松平光長改易の延宝 9 年（1681）まで高田藩領、その後は幕府領となって幕末に至る。

これまで、昭和 58 年（1958）編さんの「清里村史」や、平成 16 年（2004）発行の「清里村集落誌資料集」などでは、梨平村の史料はほとんど知られていなかった。このたびの吉原家からの史料ご寄贈により、梨平村の江戸時代がようやくその姿を現しはじめたということができ、大変有難いことである。

しかしながら、この史料群は本来梨平村に伝来した文書のごく一部とみられ、これに続く史料が、なおどこかに無事に保存され、いずれ発見されるよう願ってやまない。

梨平は清里区の東端で、村はずれから急峻となり信越国境の「梨平峠」にかかる。この峠越えの道が長野県飯山市に通じ、古くから信越を結ぶ交易ルートの一つであった。史料群の中の天保 9 年（1838）「盗賊一件ニ付諸書物」（1362-81-1）は、この梨平峠や牧峠など関田山脈を越えるこの地域の交通路と深くかかわって起こった出来事の記録といえよう。

地域内の「水島磯部（みずしまいそべ）神社」は、頸城郡中の延喜式式内社に比定されていて、その祭礼には「梨平古代詞（こだいじ）」という伝統芸能（市指定無形文化財）の踊りが奉納される。



「盗賊一件ニ付諸書物」 梨平村盗まれ主太郎右衛門
(天保 9 年 7 月)